

総目次 (33)

第20巻第1号～第41巻第12号

右側大動脈弓の1例……………木内宗甫・他, 491(40)	Costen 症候群……………1287(39)
耳鼻咽喉科領域細菌感染症 250例における感受性試験成 績の検討……………上田 俊郎, 721(40)	Forestier 症候群……………1288(39)
耳鼻咽喉科領域疾患, 特に急 性咽頭炎, 急性鼻炎, 急性中 耳炎と気象現象との関係……………渡辺 一夫, 693(40)	Franceschetti 症候群……………大和田, 1289(39)
むちうち症と耳鼻咽喉科……………岩田 逸夫, 923(40)	Frey 症候群……………上 村, 1291(39)
プロタルゴール過敏症につい て……………宮部 勲, 461(40)	眼窩漏斗尖端部症候群……………1291(39)
プロタルゴール過敏症の一例 ……河本和友・他, 1009(40)	Gradenigo 症候群……………1293(39)
比較試験について……………佐久間 昭, 732(40)	Hand-Schüller-Christian 症 候群……………桐 谷, 1293(39)
耐性菌とそれに対する抗生物 質……………三橋 進, 741(40)	Heerfordt 症候群……………1295(39)
抗真菌剤……………福島 孝吉, 751(40)	Horner 症候群……………1295(39)
非ステロイド系抗炎症剤……………水島 裕, 757(40)	Hunt 症候群……………1296(39)
抗アレルギー剤および減感作 療法……………杉田 和春, 765(40)	Hutchinson 症候群……………1299(39)
副腎皮質ホルモン療法……………熊谷 朗, 777(40)	咽頭側索炎症候群……………1300(39)
作用機序からみた血管拡張剤 —現在ある薬についての批判 的立場から—……………後藤文男・他, 785(40)	過長茎状突起症候群……………1300(39)
止血剤の作用と使用経験……………福武勝博・他, 797(40)	Kartagener 症候群……………1302(39)
内耳代謝とビタミン剤……………野村 恭也, 809(40)	頸静脈孔症候群……………1303(39)
制癌剤……………佐藤靖雄・他, 817(40)	Kimmelstiel-Wilson 症候群……………1307(39)
輸液療法の実際……………加藤暎一・他, 827(40)	Klein-Wardenburg 症候群……………1307(39)
手術前後の疼痛および不安と 鎮痛, 鎮静剤の使用……………恩地 裕・他, 835(40)	Klippel-Feil 症候群……………1307(39)
ショック対策と薬剤……………藤田昌雄・他, 843(40)	Klippel-Weber 症候群……………1308(39)
若年期悪性腫瘍の統計的考察……………八木正勝・他, 45(41)	Küttner 症候群……………1319(39)
最近の抗生物質研究開発の動 向……………岩沢 武彦, 525(41)	Laurence-Moon-Biedl-Bardet' 症候群……………大和田, 1320(39)
Agranulocytose の3例……………竹越 省一, 313(41)	Lermoyez 症候群……………1320(39)
僻地における耳鼻咽喉科疾患 の実態について……………梅田良三・他, 613(41)	Lobstein 症候群……………1322(39)
動脈灌注……………佐藤靖雄・他, 833(41)	Löffler 症候群……………1322(39)
Adair-Dighton 症候群……………上 村, 1277(39)	Melkerson-Rosenthal 症候 群……………1323(39)
Alport 症候群……………1278(39)	Ménière 症候群……………1324(39)
Arnold-Chiari 症候群……………上 村, 1278(39)	Mikulicz 症候群……………1325(39)
Barré-Liéou' 症候群……………1279(39)	Moebius 症候群……………1325(39)
Behçet 症候群……………1281(39)	Orofacioidigital (OFD) 症候 群……………1326(39)
Bell 麻痺……………1282(39)	Osler 症候群……………1326(39)
鼻咽頭症候群……………1284(39)	Parinaud 症候群……………1327(39)
Bruns 症候群……………1285(39)	(Pierre) Robin 症候群……………1327(39)
Charlin 症候群……………1286(39)	Plummer-Vinson 症候群……………1328(39)
Cogan 症候群……………1286(39)	Riga-Fede 症候群……………1329(39)
	Romberg 症候群……………1330(39)
	先天性風疹症候群……………上 村, 1330(39)
	Simmonds-Sheehan' 症候群 ……………大和田, 1331(39)
	Sjögren 症候群……………1331(39)
	Subclavian Steal 症候群……………上 村, 1333(39)
	Thornwaldt 症候群……………1334(39)

Treacher-Collins 症候群大和田, 1335(39)	Vogt・小柳・原田症候群1337(39)
Trotter 症候群1335(39)	Waardenburg 症候群1338(39)
Turner-Kieser 症候群1335(39)	Wallenberg 症候群大藤・大和田, 1339(39)
Ullrich 症候群1336(39)	Weber 症候群大和田, 1341(39)
Ullrich-Feichtiger 症候群1336(39)	Wegener 肉芽腫症1342(39)
Usher 症候群1336(39)	Wolf-Parkinson-White 症候 群1344(39)
	〔薬剤〕・〔雑文(随筆・印象記など)〕は省略します。〔了〕

□ お知らせ □

《第5回鼻副鼻腔手術研修会の御案内》

耳鼻咽喉科展覧会では本年11月に4日間の予定で第5回「鼻副鼻腔手術研修会」を開催致します。昨年度までは3日間でしたが、研修内容の増加により本年度より4日間に致しました。

研修の趣旨は実施に即した鼻副鼻腔手術の研修とその基礎知識の修得を主に行なうことでありまして、その細目は下記の通りです。

会 期：昭和47年11月18日(土)、19日(日)、
20日(月)、21日(火)の4日間で午前9
時より午後9時まで。
会 場：東京都港区西新橋3丁目25番3号
慈恵医科大学内
〔国電新橋下車タクシー利用170円。地下
鉄日比谷線神谷町下車徒歩5分。東京タワ
ーの傍。(東京駅皇居側中央郵便局前バス
停より等々力行慈恵医大前下車)〕
講師およびインストラクター：高橋良教授、森田茂教授
(慈大解剖)、他招待講師
内 容：講義(スライド、シネ、ビデオテープ、テ
キスト使用)
人屍体による臨床解剖実習
手術見学供覧(手術室およびテレビ)
組織標本、レ線フィルムの展示解説
カンファレンスによる検討
定 員：20名
申込み期間：昭和47年6月15日より昭和47年9月15
日までに到着。

会員決定の御通知：申込みが定員を超える場合には、昭
和46年9月16日(土)、午後3時より耳
展誌事務室にて公開抽選を行ない、その結
果をただちにご通知致します。
会 費：6万円(但し当会期時に耳鼻咽喉科学教室
員で主任教授の紹介の方に限り5万円に割
引)
申込み方法：申込書に必要事項を御記入の上、下記宛郵
送して下さい。
〒105 東京都港区西新橋3丁目25番8号
東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科
学教室内
耳鼻咽喉科展覧会
「鼻副鼻腔手術研修会」係
TEL(433) 1111 内線2488
当方にて申込書を受取りますと申込受領書をお送
り致します。
会費は会員決定の通知を受取られましてから書留
にてお払込み下さい。

《耳鳴の分類・診察法から治療法までを平易に解説》

耳 鳴 の 診 療

後 藤 敏 郎(長崎大学名誉教授)

永 浜 武 彦(福岡城南病院)

耳鳴は耳鼻科においては非常に重要な症状であるが、その原因が複雑ではつきりしていないため、診療にはなほだ困難である。本書はまず、どのような耳鳴であるかを知るための分類法を記し、次にそれらの耳鳴についてのオーディオメータ等を使用しての診察法を述べ、それらがどのような臨床像を示すかに説きおよび、さらにその治療法を記している。また最後には今日まだ確認していない成因についての各種の学説について考察。

A5判・頁272・図42・写真2 ￥3,800 ㊦90 医学書院